NPO ピースサポート協会 ニュース 第10号

ピースサポートとは「まごころの平和支援」の願いが込められています。　　２０１９年（平成３１）４月

発行　NPO 法人 ピースサポート協会
〒379-2143　群馬県前橋市新堀町 190 番地１
TEL/FAX　027-265-2277
E-mail：info@peace - sa.co
URL:http：//peace - sa．com

国民の象徴として平和への道を歩まれた平成天皇と美智子さま

サイパン慰霊

被災地へ訪問

天皇陛下、平成最後の誕生日 涙声で「国民に感謝する」

言葉を詰まらせながら思いを語られた天皇陛下のお言葉　　2018 年 12 月 23 日

私は即位以来、日本国憲法の下で象徴と位置付けられた天皇の望ましい在り方を求めながらその務めを行い、今日までを過ごしてきました。

「沖縄は、先の大戦を含め実に長い苦難の歴史をたどってきました。皇太子時代を含め、私は皇后と共に 11 回訪問を重ね、その歴史や文化を理解するよう努めてきました。沖縄の人々が耐え続けた犠牲に心を寄せていくとの私どもの思いは、これからも変わることはありません」

「先の大戦で多くの人命が失われ、また、我が国の戦後の平和と繁栄が、このような多くの犠牲と国民のたゆみない努力によって築かれたものであることを忘れず、戦後生まれの人々にもこのことを正しく伝えていくことが大切であると思ってきました。平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵しています。」

「次に心に残るのは災害のことです。平成 3 年の雲仙・普賢岳の噴火、平成 5 年の北海道南西沖地震と奥尻島の津波被害に始まり、平成 7 年の阪神・淡路大震災、平成 23 年の東日本大震災など数多くの災害が起こり、多くの人命が失われ、数知れぬ人々が被害を受けたことに言葉に尽くせぬ悲しみを覚えます。」ただ、その中で、人々の間にボランティア活動を始め様々な助け合いの気持ちが育まれ、防災に対する意識と対応が高まってきたことには勇気付けられます。

「日系の人たちが各国で助けを受けながら、それぞれの社会の一員として活躍していることに思いを致しつつ、各国から我が国に来て仕事をする人々を、社会の一員として私ども皆が温かく迎えることができるよう願っています。また、外国からの訪問者も年々増えています。この訪問者が我が国を自らの目で見て理解を深め、各国との親善友好関係が進むことを願っています。」

「天皇としての旅を終えようとしている今、私はこれまで、象徴としての私の立場を受け入れ、私を支え続けてくれた多くの国民に衷心より感謝するとともに、自らも国民の一人であった皇后が、私の人生の旅に加わり、60 年という長い年月、皇室と国民の双方への献身を、真心を持って果たしてきたことを、心からねぎらいたく思います。

（上記は、国民の幸せと平和を願われる天皇陛下のお言葉のご趣旨を受け止め記載させて頂きました。久保田拝）

3.11 大震災から 8年 福島原発は 今！

今も全国に５1,７７８人の方々が避難生活されている。

＜緊急！＞福島原発廃炉への課題

① 核燃料が溶け落ちる「核燃料デブリ」が880トン毎時73シーベルト
燃料デブリとは、溶けた核燃料と原子炉内の壁や金属が混ざり冷えて固まったもの。人間は5分も生きていられない。取り出しは？

② 汚染水948基112万トン　海洋放水？　海洋汚染が深刻になる？

11都県に飛び散った放射能・指定廃棄物が 87,884トン

セシウム8000Bq/Kg以上の指定廃棄物の最終処分をどこへ運ぶのかいまだに決まっていない。　原発はトイレなきマンションと言われる？

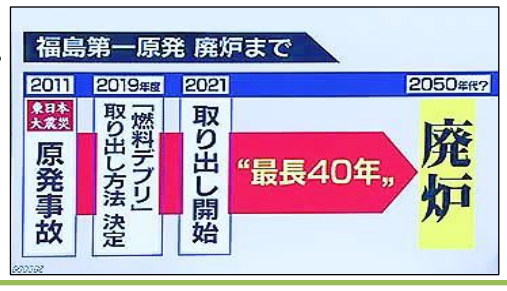
廃炉完了まで何年かかる？

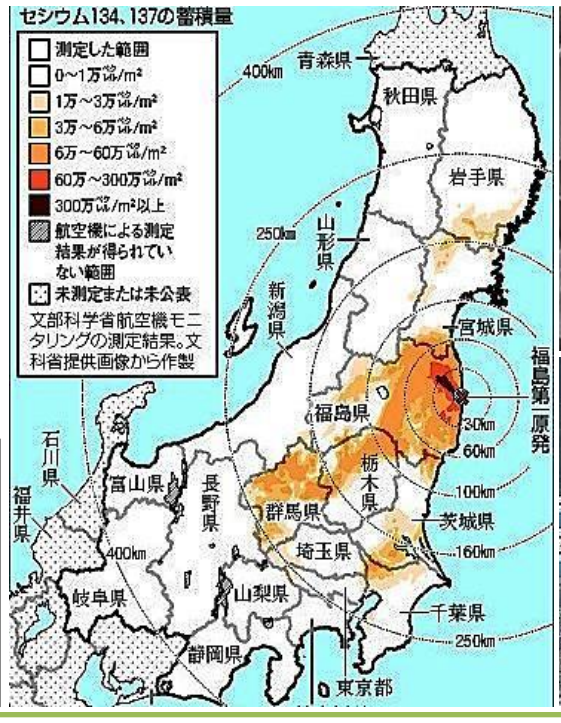
必死な廃炉作業があと 40 年・・・

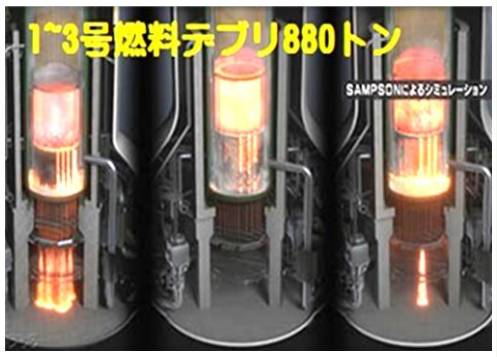
原発廃炉作業員一日 7,000 人

福島原発廃炉に向けて毎日命がけで働いている作業員の方々がいることを忘れない・・・。

廃炉費用20兆円から70兆円に







３月３日福島県葛尾村～大熊町　～　４日宮城県石巻市雄勝町の被災地を訪ねました。

３月３日原発事故から８年全村避難した葛尾村を訪ねました。

案内してくれた篠木（しのきいさむ） 兵 さん,帰還するべく現地の葛尾村は、放射能の空間線量が高くて、今まで 1500 世帯であった村が、200 人ほどしか還っていない。モニタリングポストはきれいに設置されて、0,17μSvを示しているが、すぐ奥の山林では、3,4μSvの放射線量が残っている現実です。大きく経営していた牛舎は廃墟の状態になり、隣の農地には、除染廃棄物が山積みされ、中間貯蔵施設への移動を待っている。

地元名物の山菜やキノコは、山林が汚染されて食べられないので全滅です。又、山から雨水が農地へ流れてくるので、コメ作り、野菜づくりはしても放射能の風評被害で売れないのです。

葛尾村の廃業した牛舎 を視察

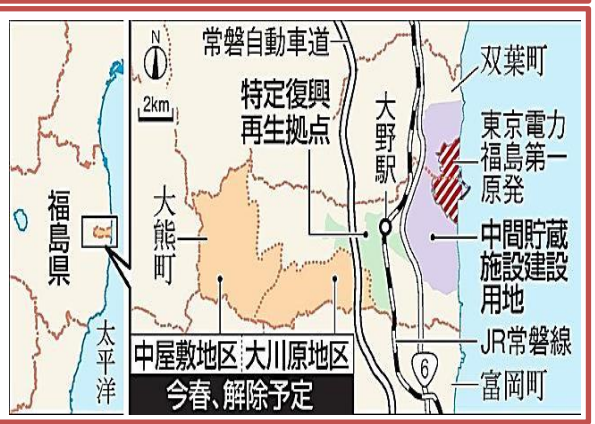
原発の大熊町を訪ねました。

葛尾村から常磐高速道路をくぐり大熊町へ入る道路は、3.2μSv空間線量でした。この一般国道は 0.857μSvを表示しているが、実際の林の中や平地では高い染料を示します。政府が定める年間２０mmSvは,一時間０,23μSvまでその 10 倍の放射能空間線量です。本当に、心配になります。

原発の地大熊町へ0. 857μSv

４月には帰還制限解除・・・

全町避難が続く福島県大熊町４月には帰還制限解除となる、町内には廃炉作業が続く第一原発、汚染土を保管する中間貯蔵施設がある。住民意向調査では「戻りたい」が約１割、「戻らない」が約６割だった。実際にご家族が生活できる環境なのか心配です。

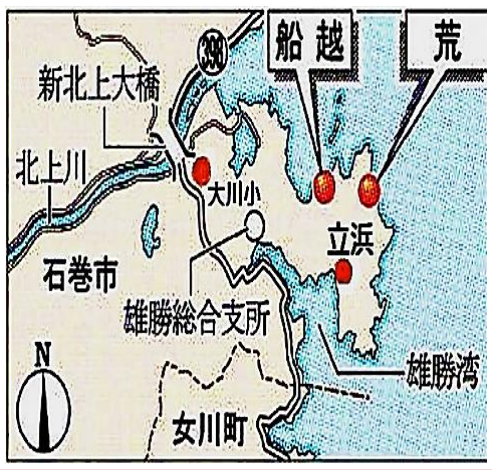


３月４日 石巻市雄勝町の漁師さんを訪ねました。

雄勝町立浜の末永自治会長さんや横江さん方を訪ねました。大震災から８年を迎えた皆さんは、「現在高台の復興住宅に移れたが、海水温度が高くなってきたのか、ホタテやワカメ漁の不漁が重なりました」「しかし何とか力を合わせて頑張っています。本当に皆さまから支援を頂き有難い気持ちでいっぱいです」「今後ともご支援のほどよろしくお願いします」とのお話を頂きました。雄勝町には帰ってきた住民が30%に減り、漁業の仕事も成り立たず、経済的に追い込まれている人たちが自殺してしまう事件も生まれています。
私たちは、漁師さん方の真剣な復興生活を、さらに支援を拡げていきたいと思います。ワカメ支援ご協力お願い致します。

ワカメを食べて復興支援のご協力をお願いします！

雄勝町立浜の皆さんとワカメ支援の話し合い



平成 30 年度の活動報告

事業報告･活動計算書はＨＰ http://peace - sa.com をご覧ください。

平成 30 年度　支援活動の報告　温かいご支援ありがとうございました。

支援活動	内　　容
ワカメ昆布支援活動	5,154 袋　（振り込み済み）
復興支援活動	福島県葛尾町・宮城県雄勝町　（￥315,000）
人材育成事業	ダルマ塾　４月～毎月１回（参加者 118 名）
講演会事業	足利市,前橋市(参加者１６０名)
理事会・役員会	理事会 年２回　　役員会 年６回
支援者サポーター	１２５名

H31 年２月 23 日（土）「前橋 M サポふれあい祭り」

前橋市民活動センターで「M サポふれあい祭り」が開催され、ワカメ復興支援を呼びかけて 164 袋完売しました。昨年より増して多くの皆さまが東北復興にご協力して下さり感謝でいっぱいです。
ありがとうございました。

「桐生市駅まえ広場」H30.5.5

桐生市市民活動センター「ゆい」の近藤センター長さんの配慮により桐生駅に於いて「ワカメ支援」を呼びかけました。２時間で 254 袋完売。ご協力有難うございました。

「葉鹿町トラック市」H30.6.3

毎年開催されるトラック市で、ワカメ支援を、樋口さんの支援グループが呼びかけてくださいます。あっという間に 250 袋ものワカメが完売されました。

初めての「歌声サロン」と被災地支援報告でした。

年に一度、足利市民会館と前橋市下川淵公民館で開催する「被災地支援活動報告会」、この度は、初めての「歌声サロン」をとり入れて、懐かしい歌謡曲をみんなで歌い、とても楽しい時間を過ごしました。
支援者の皆さまのまごころのご支援のお陰さまで、東北被災地の皆さまのお力になれていることに心から感謝でいっぱいです。

７月 22 日　前橋市下川淵公民館にて

７月 16 日　足利市民プラザ会場にて

「被災地支援ツア - 」H31.3.3～4

福島県葛尾村の被災地、８年前全村避難した 1500 世帯の村民は、高齢者 200 人が帰ってきた。農地には放射能汚染廃棄物が山のように積まれ、コメ作りもできない、名物の山菜も食べられない。これからどう生きていけばよいのか途方に暮れています。被災地の篠木さんの言葉に現実の重さが伝わってきました。

「ダルマ塾」は、生活に即した諸問題を通して、豊かな心を身に着けて生きがいある人生を歩むことが目的です。

本音での学びあいには感動と生きがいが生まれます。

日時：毎月第３土曜日
　　AM10:00～PM3:00
会場：足利市民活動センター
対象：平和支援活動へ意欲のある方、
　　誰でも参加できます。

平成時代から令和時代へ　　力強く平和の歩みを進めましょう！

国民の幸せと平和を祈り、戦争で尊い命を失われてしまった多くの人々への慰霊の旅を続け、災害に見舞われた国民に寄り添い被災地を訪ね続けた平成天皇・美智子さまのお姿は、日本人としての模範を示して下さったものと受けとめます。温かい心で人さまの悲しみに寄り添い支えていくそんな地域社会、そして決して戦争のない平和な国をみんなでつくり世界中の人々に示していくことが、新時代の私たちに託された大事な役割ではないでしょうか。
平成から令和時代となった日本、今こそ見守り・支えあい、助け合いの時代となりました。
争いがなく、安心で安全な明るく住みよい地域づくりは、あたたかい家庭から生まれてきます。
その、豊かで明るい家庭・社会・国家は、私たち一人一人に託され期待されています。
ピースサポート協会は多くの皆さまと共に、豊かな心を学び合い、明るく住みよい地域社会づくりに向けて、善意の輪を拡げてまいりたいと思います。

NPO ピースサポート協会 理事長 久保田光明　拝

みんなで助け合いの輪を拡げましょう！

あなたも一緒に平和支援のサポーターになりましょう！

年一口￥3,０００の支援で平和活動の支援者（サポーター）です。
ピースサポート協会は、多くの皆さんと共に、思いやりあふれる家庭や社会を拡げ、国内の被災された方々や、海外の貧困生活に苦しむ子供たちへ直接届く支援を推進しています。世界中の平和のために、私たちと一緒に平和支援のサポーターになりましょう。

世界中の幸せは一人の人の心から
NPO 法人 ピースサポート協会
事務所 〒379-2143 群馬県前橋市新堀町 190 番地１
TEL/Fax（027）265-2277 携帯 090-1113-9200
E-mail info@peace-sa.com　http://peace-sa.com